

神奈川県立平塚ろう学校 令和7年度第3回学校運営協議会 開催報告

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立平塚ろう学校における第3回学校運営協議会
開催期日	令和8年2月26日(木)
開催場所	神奈川県立平塚ろう学校 会議室
出席者	神奈川県立平塚ろう学校 学校運営協議会委員8名(2名欠席)
次回開催予定日	令和8年5月頃
問合せ先	平塚ろう学校 副校長 木川 電話 0463-32-0129 FAX 0463-32-1646 電子メール hirarou-sd@pen-kanagawa.ed.jp
会議資料	次第 資料I 中間評価
議題	1 授業見学 2 令和7年度中間評価 3 切れ目ない支援部会
審議(会議)経過	<p>1. 学校長あいさつ 今年度も残り1か月弱となった。 本校にとっては創立100周年、デフリンピックなど大きな節目の年であり、多くの協力をいただいた。デフリンピックでは湘南ジャーナルでの発信もあり、デフリンピアンと学習する機会を得られた。本日、テコンドー選手が本校を表敬訪問し、授業にも参加するなど、教育活動に溶け込む姿が見られた。 本日は教育活動のあり方について協議したい。</p> <p>2. 学校運営協議会会長あいさつ 事前資料を見ると、1年間の取組において学校全体がよく頑張っていると感じる。 忌憚のない意見を出し合い、来年度につなげていきたい。</p> <p>3 学校評価に関する協議 (1) 学校評価アンケート結果報告(事務局) 事前配付資料とPowerPointで説明する。 (2) 意見交換(質問と回答形式) ● 他学部体験週間について Q.(委員):今年度の特色か。 ⇒A.(事務局):</p>

今年で4年目。期間を決めて学部を越えて授業を見合う取組。
職員が入れ替わることで、子どもの成長過程を共有できる。
補足(委員):学部が孤立しないために有効。

● ICT 活用について

Q.(委員)ICT 活用の状況は。

⇒A.(事務局):

ロイロノートを活用し、意見共有やグループ発表がしやすい授業を実施。
聴覚障害のある子どもにとって視覚的理解がしやすく有効。

● 地域交流の状況について

委員:大原公民館との連携が進み、3/1 に公園愛護会・公民館・平ろう児童生徒が関わる活動(四季の花を植える取組み)を予定している。

Q.(委員):少人数の良さはあるが、外部との交流の機会が少なく交流の機会は有意義である。平塚駅の交流、寄宿舍・東海大生の交流の状況は。

⇒A.(事務局)

平塚駅との交流では、駅員来校による親睦の機会、平塚駅に出向きバックヤード見学など安全学習の機会となっている。

寄宿舍生は少ないが、短期利用は3年目で、個々の目標をもって利用している。

東海大交流は生徒たちに好評で、機会が合えば短期利用生も参加している。これを機に短期利用を申し込む生徒もいる。

以前は高浜高校手話コミュニケーション部との交流もあったが、継続実施が難しく、今年度は小学部の授業に参加の形で交流の機会とした。今後は高等部授業への参加など機会を生かしたい。

補足(委員):高浜高校手話コミュニケーション部と小学部との交流を行い、生徒から「良かった」との声があがった。

補足(委員):東海大学との交流の発展を期待している。

● 学校課題(授業力・手話力・自立活動)について

Q.(委員):地域連携、コミュニケーション等については理解した。学校自身が抱える課題にはどのようなものがあるか、今抱えている問題にどう取り組むか。質の良い教育を保てるよう協議するのが学校運営協議会の意義。学校だけで対応できるのか、外部支援が必要なのか整理が必要では。

⇒A.(事務局):

学校評価アンケート結果報告に示している。後ほど資料を使って説明する。アンケート結果の通り、授業力向上、ろう教育の専門性維持向上、教員の手話力、自立活動の充実を課題として検討中。

補足(委員):パーセンテージの数値だけでなく見えない部分の意見も重要。

(事務局)運営協議会の開催方法や内容を検討し、いただいた意見を次につなげたい。

● 防災・安全対策について

Q.(委員):避難訓練や不審者対策の取組はどうか。当社昨年度末に事件があった。参考になる取り組みがあったら見せてもらいたい。

Q.(定成委員):ろう・難聴児の特性に応じた防災対策(例えば笛を携帯させる)や近隣との連携は。

⇒A.(事務局):

避難訓練は毎年進化しているが、ろう・難聴児に対応した笛などの対策は行っていない。

職員(ろう職員含む)が平塚市福祉避難所訓練や平塚駅の災害訓練に参加。将来的には生徒の参加も検討。

補足(委員):夜間の教職員不在を想定し、盲学校寄宿舎職員との連携を進めている。

補足(委員):大原小学校の訓練に平ろうが参加していたが、復活させたい。

● コミュニケーション力・日本語力の育成について

Q.(委員):総合的なコミュニケーション能力の向上は良い。その中で日本語力向上の具体的な例を紹介してほしい。具体例はあるか。

⇒ A.(事務局):

小学部・中学部とも実態に応じた検査ツールを使って、日本語力のアセスメントを実施。J-COSS など。自立活動の時間に、絵日記、新聞読み取り、文章指導を実施している。

幼稚部の絵日記は親子のコミュニケーションツールとして活用し、単語→2語文→3語文→5WIHへ発展させている。

補足(委員からの伝達):ろう重複障害で福祉サービスが必要な場合、

市の障害福祉課へ相談可能。

4 切れ目のない支援部会(進路)

PowerPoint で説明する。

●進路体験・就労について

Q.(委員):ろう・難聴者の採用の現実と課題は。職種に偏りはないか。適正と本人の働きたい気持ちは別と考えるが。

⇒A.(事務局):

高2から見学・実習を行い、適性を見極める。

就職後に課題が出る場合は学校に連絡が入り、障害者就業・生活支援センター等と連携して対応。

特定の職種に偏ることはない。ろう難聴者の先輩がいる所で働きたいということはある。

Q.(委員):子どもは夢を持つことが大切。このことについて学校での取り組みは。

⇒A.(委員・事務局)

デフリンピックを機に、卒業生が職場体験を語る機会があった。

自立活動講演会を実施。様々なろう難聴者の活動を知る機会となっている。講演をきいたり、ワークショップであったり。また身近にいるろう難聴の教員も、子どもたちにとって憧れの存在となっている。

補足(委員):息子がろう者。プロ野球選手になるのが夢で企業の実習をしたが、夢をあきらめきれずプロ野球選手への道を模索した。今は教員。夢をあきらめず育てていけば自分に合った将来につながる。夢を大切にしながら成長を支えることが重要。

まとめ(委員):

進路の話題から、幼児期からのつながりの重要性が確認でき、有意義な議論となった。

5 学校評価アンケート(事務局)

資料に基づき説明。※詳細は資料参照

学校の様子は学校 HP に掲載。

不祥事防止ゼロプログラムは資料配付のみで説明省略。

6 その他・事務連絡

令和8年度 学校運営協議会日程(予定)後日、委嘱依頼を行う。

	第1回:5月28日 第2回:10月29日 第3回:2月25日
--	--------------------------------------